

市の将来像の実現に向けて

まちづくりの課題である「魅力ある地域社会をつくり、将来にわたって市の活力を維持する」ため、各分野の取組を横断的に連携しながら推進していく3つの重点戦略を掲げます。

これら3つの重点戦略を一体的に推進することで、人口減少や少子高齢化が進行する中においても、誰もが安心して暮らし、一人ひとりの多様な幸せにつながるまちづくりを進めます。

また、新しい時代の力や市に関わるさまざまな人びととのつながりを大切にした地方創生を進めることにより、市の将来像「しあわせ共感 安心のまち つるがしま」の実現を目指します。

さらなる地方創生の推進

重点戦略は、まちづくりの課題を解決するために推進するものであり、人口減少への対応と地方創生を目的とする国のまち・ひと・しごと創生法に基づく総合戦略の考え方と一致するものです。

そのため、鶴ヶ島市では、第6次鶴ヶ島市総合計画前期基本計画の重点戦略を「第2期鶴ヶ島市まち・ひと・しごと創生総合戦略」として位置付け、総合計画と一体的に取り組んできました。

国は、令和4年に「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を策定し、その後、令和6年12月に取りまとめた「地方創生2.0」において、次の10年を見すえた基本的な考え方を示しています。本市でも、そうした国の趣旨を踏まえ、後期基本計画の重点戦略を「第3期鶴ヶ島市まち・ひと・しごと創生総合戦略」として位置付け、引き続き、一体的に推進していきます。

これまでの地方創生の取組を発展させ、デジタルなどの新技術を活用しながら、地域の可能性を引き出し、市の特性を最大限に活かした地方創生に取り組むことにより、誰もが楽しく心豊かに、安全・安心に暮らせる持続可能な地域社会を目指します。

新たな人の流れの創出とまちの魅力のブランド化

市民や企業、関係団体、大学などと行政が連携し、ともに考え、行動することによって、新たな人の流れの創出や地域の活性化を推進します。地域や世代を超えたさまざまな人びとの交流と参画を促し、市内外の多様なつながりや関係人口の創出などにより、まちの好循環を生み出す持続可能なまちづくりを進めます。

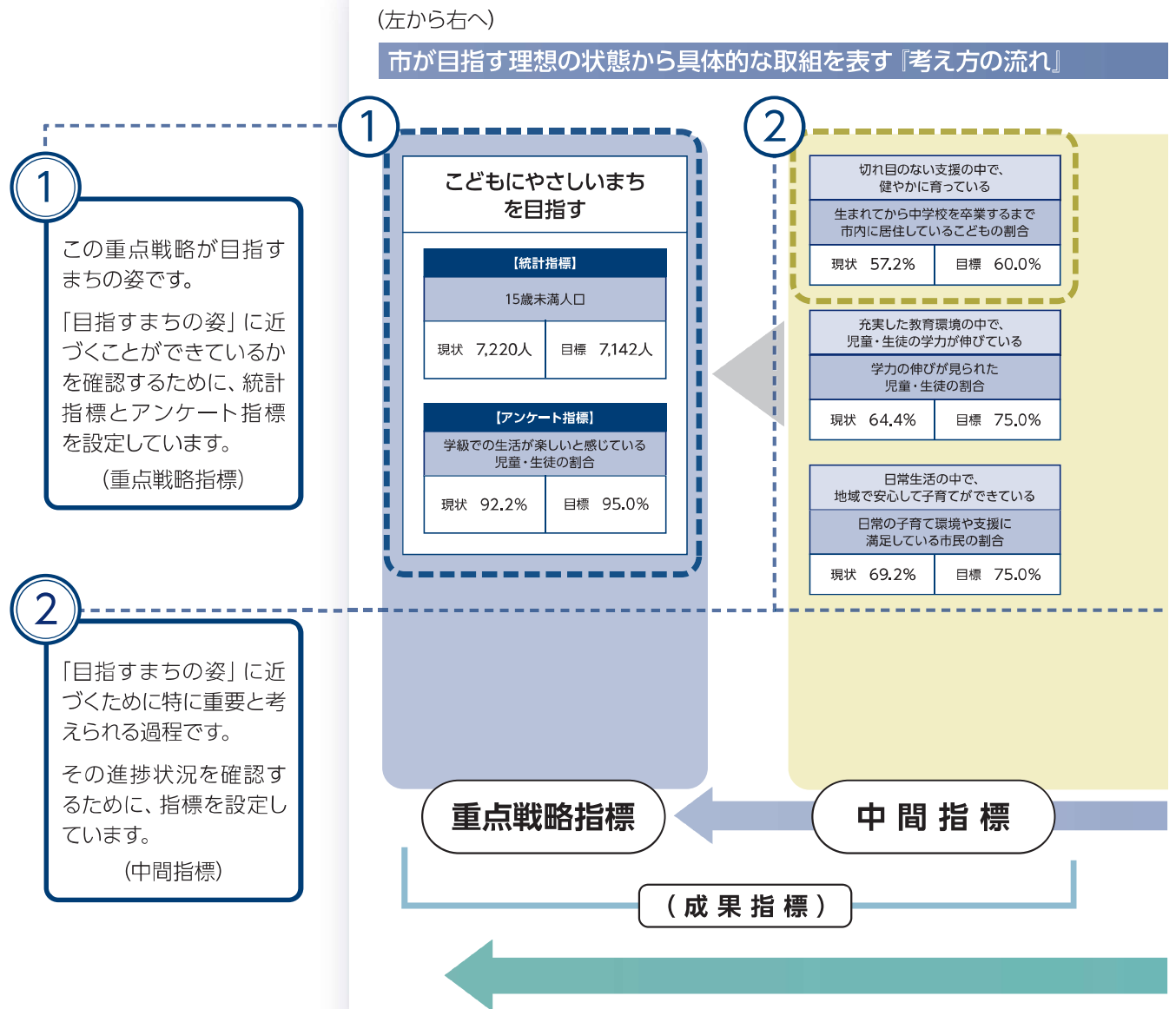
さらに、鶴ヶ島市の有する多彩な人やさまざまな地域資源などを活用し、まちの魅力やブランド価値を高めるシティブランディングの取組を進めます。

「住みやすさ」や「暮らしやすい」などの市のブランドイメージを確立し、市内外に向けて効果的に発信し、共有することなどにより、若い世代や子育て世代から選ばれ、将来にわたって住み続けたいと感ずることが出来る魅力ある地域社会の実現を目指します。

重点戦略イメージ図



重点戦略の見方



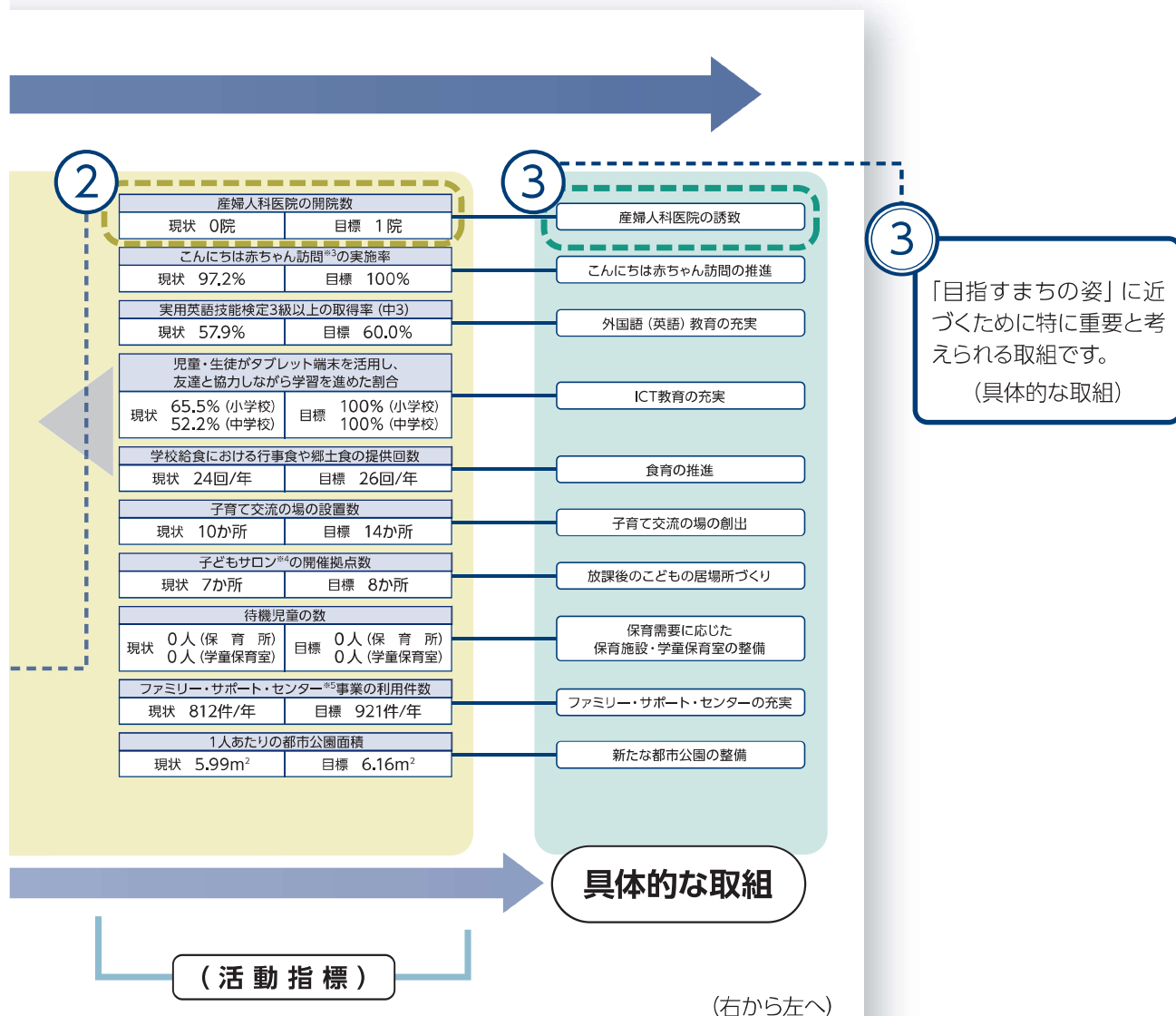
◆指標の考え方について

重点戦略に掲げている指標には、活動指標と成果指標があります。

- ・活動指標…事業の具体的な活動量や活動実績を測るもの
- ・成果指標…事業を実施することで市民にどのような効果・効用がもたらされたかを表すもの

いずれの指標にも「目標値」を設定し、総合計画に掲げた「目指すまちの姿」に近づくことができているか、その進捗状況を確認するための一つのものさしとして活用します。

なお、重点戦略に掲げている指標以外にも個別計画などにおいて、参考となる指標を設定しています。



具体的な取組と大きなビジョンのつながりを表す『取組の流れ』

◆指標の時点について

現状欄は、原則として令和5年度の実績値を記載しています。
目標欄は、原則として令和11年度実績とし、後期基本計画の計画期間内(令和11年度末まで)に目指す目標値を記載しています。
(原則以外の年度の場合は、時点を記載します)

(1) 妊娠前から子育て期にわたる切れ目のない支援の充実

安心してこどもを産み育てられる環境づくりを推進するとともに、多様な支援ニーズを捉え、すべてのこどもや子育て家庭に寄り添った総合的な支援体制を強化することにより、妊娠前から子育て期にわたる切れ目のない支援の充実を図ります。

(2) 新しい時代を生きるこどもたちへの教育の充実

学び合い学習^{※1}や外国語教育、ICT^{※2}を活用した教育を推進するとともに、地域と連携した学校づくりや、学校施設の老朽化対策、学校再編などを一体的に進め、教育環境の質の向上を図ります。また、こどもたちのまちへの愛着を育むため、まちづくりへの参画を促す取組を進めます。

(3) 安心して子育てができる環境の整備

保育所（園）、学童保育室の待機児童数「ゼロ」の継続や、子育て交流の場の創出などにより、身近な地域で安心して子育てができる環境づくりや、こどもたちが安心して過ごせる居場所づくりなど、地域全体ですべてのこどもと子育てを支える取組を進めます。

こどもにやさしいまち
を目指す

【統計指標】

15歳未満人口

現状 7,220人 目標 7,142人

【アンケート指標】

学級での生活が楽しいと感じている
児童・生徒の割合

現状 92.2% 目標 95.0%

切れ目のない支援の中で、
健やかに育っている生まれてから中学校を卒業するまで
市内に居住しているこどもの割合

現状 57.2% 目標 60.0%

充実した教育環境の中で、
児童・生徒の学力が伸びている学力の伸びが見られた
児童・生徒の割合

現状 64.4% 目標 75.0%

日常生活の中で、
地域で安心して子育てができている日常の子育て環境や支援に
満足している市民の割合

現状 69.2% 目標 75.0%

※1 学び合い学習…児童・生徒が自ら考え、仲間との対話を通して、考えを広げたり深めたりすることで、すべてのこどもの学びを保障することを目指す学習の考え方

※2 ICT…情報通信技術のこと。従来から使われていたITに替わって、通信ネットワークによって情報が流通することの重要性を意識して使用される言葉

※3 こんにちは赤ちゃん訪問…子育ての孤立化を防ぐために乳児のいるすべての家庭を訪問し、子育ての悩みを聞き、必要な支援につなげる事業

※4 子どもサロン…放課後のこどもたちの居場所として、地域住民と一緒に、宿題や遊んだりできる場のこと

※5 ファミリー・サポート・センター…子育ての援助を受けたい人（利用会員）と子育ての援助をしたい人（提供会員）が、地域の中で相互援助を行う会員組織



こどもたちの活躍と 子育ての支援



産婦人科医院の開院数	
現状 0院	目標 1院
こんにちは赤ちゃん訪問 ^{※3} の実施率	
現状 97.2%	目標 100%
実用英語技能検定3級以上の取得率(中3)	
現状 57.9%	目標 60.0%
児童・生徒がタブレット端末を活用し、 友達と協力しながら学習を進めた割合	
現状 65.5% (小学校) 52.2% (中学校)	目標 100% (小学校) 100% (中学校)
学校給食における行事食や郷土食の提供回数	
現状 24回/年	目標 26回/年
子育て交流の場の設置数	
現状 10か所	目標 14か所
子どもサロン ^{※4} の開催拠点数	
現状 7か所	目標 8か所
待機児童の数	
現状 0人(保育所) 0人(学童保育室)	目標 0人(保育所) 0人(学童保育室)
ファミリー・サポート・センター ^{※5} 事業の利用件数	
現状 812件/年	目標 921件/年
1人あたりの都市公園面積	
現状 5.99m ²	目標 6.16m ²

産婦人科医院の誘致

こんにちは赤ちゃん訪問の推進

外国語(英語)教育の充実

ICT教育の充実

食育の推進

子育て交流の場の創出

放課後のこどもの居場所づくり

保育需要に応じた
保育施設・学童保育室の整備

ファミリー・サポート・センターの充実

新たな都市公園の整備

(1) 多様な主体による健康づくりの推進

地域と連携した健康づくりを支援するとともに、保健・医療や介護予防などを一体的に推進することにより、一人ひとりの健康状況に応じ、生涯を通じた心と身体
の健康づくりを進めます。

(2) 外出したくなる環境の整備

日常的に歩きたくなるような街並み、歩道、公園、健康づくりの拠点の充実や、さ
まざまな交流機会の創出を図るとともに、公共交通のさらなる利便性の向上を図
り、誰もが気軽に外出できる住みやすい環境づくりを進めます。

(3) 社会参加の促進

身近な地域の中で、誰もがさまざまなつながりを持ち、世代を超えて支えあい、
いつまでも心身ともに健康を維持することができるように、社会参加を一層促進
します。

いつまでも健康でいられる
まちを目指す

【統計指標】

65歳からの健康寿命※1

現状	目標
18.25年(男性)	18.73年(男性)
21.24年(女性)	21.84年(女性)
(R4)	

【アンケート指標】

自身が健康であると感じている
市民の割合

現状	目標
64.4%	80.0%

何歳になっても、
健康で自立した生活ができています65歳以上の要介護・要支援
認定者数の割合

現状	目標
14.2%	18.2%以下

生活に不便さを感じず、
住みやすいと思う市民が増える

住みやすいと思う市民の割合

現状	目標
89.0%	95.0%

市民が地域社会とつながり、
心身の健康を維持できている地域活動やボランティア活動に
参加している市民の割合

現状	目標
22.6%	30.0%

※1 健康寿命…「65歳に達した人が健康で自立した生活を送る期間」を指し、具体的には「要介護2」以上になるまでの期間

※2 フレイル…加齢とともに心身の機能が低下し、「健康」と「介護」の中間の状態にあること

※3 ユニバーサルデザイン…施設や製品などを、できるだけ多くの人が使いやすいようにするという考え方



地域とのつながりを 活かした健康づくり



ラジオ体操事業の参加者数	
現状 602人	目標 700人
健康づくりのための運動を実施している人の割合	
現状 51.3%	目標 57.0%
歩数管理アプリの登録者数	
現状 — (実績値なし)	目標 3,600人
身近な地域での介護予防の場の数	
現状 40か所/年	目標 50か所/年
歩道の整備延長	
現状 91.7km	目標 93.9km
鶴ヶ島駅通りの歩行者などの通行量	
現状 3,121人/12時間 (平日)	目標 4,000人/12時間 (平日)
2,354人/12時間 (休日)	3,200人/12時間 (休日)
つるバス・つるワゴンの利用者数	
現状 388,771人/年	目標 430,800人/年
健康づくりの担い手の人数	
現状 111人	目標 170人
地域支え合い協議会の会員数	
現状 1,227人	目標 1,309人
市民センターの登録団体数	
現状 420団体	目標 420団体

ラジオ体操の普及促進

生涯を通じた健康づくりの推進

ウォーキングの普及促進

フレイル^{*2}予防・介護予防の
推進体制の整備ユニバーサルデザイン^{*3}に配慮した
歩道の整備

鶴ヶ島駅周辺地区のまちづくりの推進

つるバス・つるワゴンの利便性向上

健康づくりの担い手の支援

地域支え合い協議会活動の支援

市民活動の支援

(1) 圏央鶴ヶ島インターチェンジ周辺地域の整備・活用

圏央鶴ヶ島インターチェンジ周辺の道路インフラなどの整備効果を高め、市全体に波及させるため、経済効果をもたらす企業誘致や企業支援などを推進し、地域経済の活性化を図ります。

(2) 職住近接を中心とした時間と心のゆとりの創出

働きやすく、住みやすいまちづくりを進めるため、市内企業と連携し、地域資源を活用した新たな魅力や雇用の創出などを図るとともに、若い世代の居住の受け皿の確保などに取り組みます。

(3) 多様な担い手の活躍の促進

女性、高齢者、障害のある人、外国人など、誰もがいきいきと働き、それぞれの特性を活かし、活躍できる地域社会の実現に向けた取組を一層推進します。

多様な働き方が実現できる
まちを目指す

【統計指標】

1人あたり市民所得

現状
2,760千円
(R3)

目標
2,973千円

【アンケート指標】

自分の生活に合った働き方を実現
できていると感じている市民の割合

現状 47.5%

目標 55.0%

企業活動が活発化し、
市外からの流入人口が増える

市内従業者数

現状 22,394人
(R3)

目標 23,394人

多くの市民が、
就労などで収入を得て生活している

納税義務者数（所得割）

現状 34,531人

目標 33,253人

多様な人材が活躍し、
就労などを通じて社会とつながっている

就労者がいる世帯の割合

現状 62.9%
(R2)

目標 61.7%

※1 認定農業者…農業経営基盤強化促進法に基づく農業経営改善計画を作成し、市町村の認定を受けた農業者

※2 就労継続支援事業所（A・B型）…障害のある人に就労訓練の機会を提供する福祉サービスで、雇用契約のもとで最低賃金を保障する「A型」と、作業訓練で工賃を受け取る「B型」がある。



暮らしを支える 環境の充実



都市計画道路整備率（共栄鶴ヶ丘線）	
現状 ー (実績値なし)	目標 100%

都市計画道路の整備

人材確保に向けた支援企業数	
現状 31社	目標 61社

企業活動の支援

企業立地奨励制度に基づく指定企業数	
現状 3社	目標 18社

企業立地奨励制度の推進

認定農業者 ^{*1} の人数	
現状 18人	目標 23人

認定農業者/新規就農者の確保・育成

就職した女性の人数	
現状 122人/年	目標 178人/年

女性の就業支援

シルバー人材センターの会員数	
現状 716人	目標 770人

高齢者の就労や社会参加の機会創出

就労継続支援事業所（A・B型） ^{*2} の利用者数	
現状 185人/年	目標 223人/年

障害のある人への就労支援

連携した民間企業などの数	
現状 3件	目標 25件

官民連携のまちづくりの推進

市ホームページ特設サイトへのアクセス数	
現状 ー (実績値なし)	目標 50,000件

定住・転入の促進や関係人口の創出